Part.3
ワーク・ライフ・バランス
（仕事と生活の調和）
について考える

「すべてはこの街のために」をスローガンに掲げ、よりよい社会づくりを目指して活動する社団法人十和田青年会議所の皆さん。

会員は20歳から40歳までのかたで構成され、まさに仕事と家庭の両立に忙しい世代です。

そこで、青年会議所の会員に、仕事と生活のバランスについてお聞きしました。

効率よく仕事して地域活動や趣味の時間を作ってほしいですね

社団法人十和田青年会議所
会員　佐藤百年（ももとし）さん

■青年会議所では秋まつりなどの行事に参加していますが、仕事の一環としての活動ですか？

佐藤さん　会員が自主的に活動しているものです。秋まつりは、会員が町内会の皆さんと4月から毎月1回、打ち合わせを行って進めており自分たちだけでやっているものではありません。いろいろな人と一緒に活動することで、交流の幅を広げることにつながっています。

地域活動に参加するか否かは、個人のやる気にかかっていると思います。わたしは、ほかにも朝野球などの趣味や付き合いがありますが、家族の理解があって参加しています。

小坂さん　わたしの仕事は営業なので、仕事の段取りをして時間を作るように心掛けています。もちろん家族の理解が大切です。2人の子どもは「お母さんはお祭りをやる人」と思っているかもしれないですね。

■企業の子育て支援についてどのように思いますか？

佐藤さん　仕事を定時に終わらせることは、企業にとっても無駄を省くことになります。従業員は時間内でいかに効率よく仕事をこなすかが大事です。以前は、上司が残業していれば部下が残らなければならないというような風潮がありましたが、無駄を省くという意味では上司は部下が帰りやすい環境を作ることも必要だと思います。

最近は新聞などで企業が子育て支援に取り組む記事を目にするようになりました。でも、どんなに育児休業や介護休業などの制度を充実しても、無給では従業員の間にあまり普及しないのではないでしょうか。雇用する側は規定などの制度を利用してもらうための方法も考えてほしいし、国などの関係機関には経済的な支援なども考えてほしいと思います。

小坂さん　地域活動に参加するためには、家族の協力がなければできません。

子どもの参観日に自分がどうしても仕事で都合が付かないときは、夫に頼んでいます。でも夫は、年に1度か2度のことでも休みにくいようです。

少子高齢化の中で今後は、子育てを抱えながら両親や祖父母などの介護をしなければならない切実な問題があります。そのためにも従業員には、雇用側の金銭的支援と時間的支援がどうしても必要だと思います。

まずは「外に出る」ことを意識してほしいですね

社団法人十和田青年会議所
会員　小坂詩帆（しほ）さん

■最後に、20代や30代のかたにメッセージをお願いします。

佐藤さん　青年会議所の会員の中には、仕事が忙しい人がたくさんいます。みんな時間をやり繰りして参加しています。

わたしたちは、自分たちの住むこのまちの活性化のために活動しており、とてもやりがいがあります。ぜひ、多くの人に参加していただきたいですね。

若いかたには時間をやり繰りして常に何かチャレンジする心を持ち続けてほしいと思います。そのためにも効率よく仕事して地域活動や趣味の時間を作ってほしいですね。

小坂さん　これから社会に出る20代には大いに町内会などの地域活動に顔を出して、いろんな人に接し、働き方や生き方のヒントをもらいながら成長してほしいと思います。

「仕事が忙しい、家事が忙しい」とよく耳にしますが1年に1回だけでも地域活動に参加するべきだと思います。まずは「外に出る」という新たな一歩を意識してほしいですね。

JCI　社団法人 十和田青年会議所

平成20年12月1日現在の会員数40人。（女性会員5人）20歳から40歳までの働き盛り、子育て盛りの会員で構成され、地域活動や会員交流などを行っています。

平成20年度の主な活動

●十和田市秋まつり　●わんぱく相撲全国大会
●市立中央病院の院長による講演会の開催など

インタビューを終えて

12月には珍しく温かな日差しが降り注ぐ小春日和。白く雪化粧した八甲田を遠くに眺め、商工会議所5階エントランスでインタビュー。

次世代を担う2人の生き生きとしたお話しに、日ごろのご活躍ぶりを感じました。

ゆっパル編集委員
高森修子

カエル！ジャパン

仕事と生活の調和の実現のために

◆なぜ、いま「仕事と生活の調和」が必要なのか

近年、日本の「働くこと」を取り巻く環境は、「働きたいのに働く場がない」「仕事が忙しくて生活に豊かさが実感できない」「仕事と育児、介護の責任が二者択一になっている」など、大変厳しいものとなっています。

そして、これらの状況が働く人々の将来への不安や、豊かさを実感できない要因として、社会の活力の低下や少子化・人口減少を引き起こしています。仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進により、充実した暮らしを実現することは、社会環境を改善し、日本の将来を確かなものにします。

ワーク・ライフ・バランスとは「一人ひとりがやりがいなどを持ちながら、仕事上の責任を果たす」もので、働くことの意義を否定するものではありません。働くかたが意欲を持って働きながら豊かさを実感して暮らせるよう、多様な選択が可能な社会を作ること、つまり「しっかり働き、豊かに暮らせる社会」を目指すことが求められています。

現状と目指すべき社会

現在の「働くこと」を取り巻く環境

正社員以外の若者の増加
・経済的自立が困難

正社員は長時間労働
・家族との団らんが困難、過労

共働き世帯の増加
・育児や介護との両立が困難

↓

働く人が、将来への不安を抱えたり豊かさを実感できない

↓

社会の活力の低下、少子化のさらなる進行

これから目指すべき社会

社会を持続可能で確かにするための取り組みが必要

↓

仕事と生活の調和の推進
・就労による経済的自立
・健康で豊かな生活
・多様な働き方・生き方の選択

↓

明日への投資

個々の企業・組織にとって、単なるコストではなく、将来への成長・発展につながります。